

この方は、見たこと、聞いたことを証し^{あか}されるが、だれもその〔イエスの〕証しを受け入れない。

(32)



ムリーリョ「荒野の洗礼者 聖ヨハネ」

ヨハネによる福音書 3章 31~36節

「だれもその証しを受け入れない」



ベラスケス「キリストの磔刑^{たっけい}」

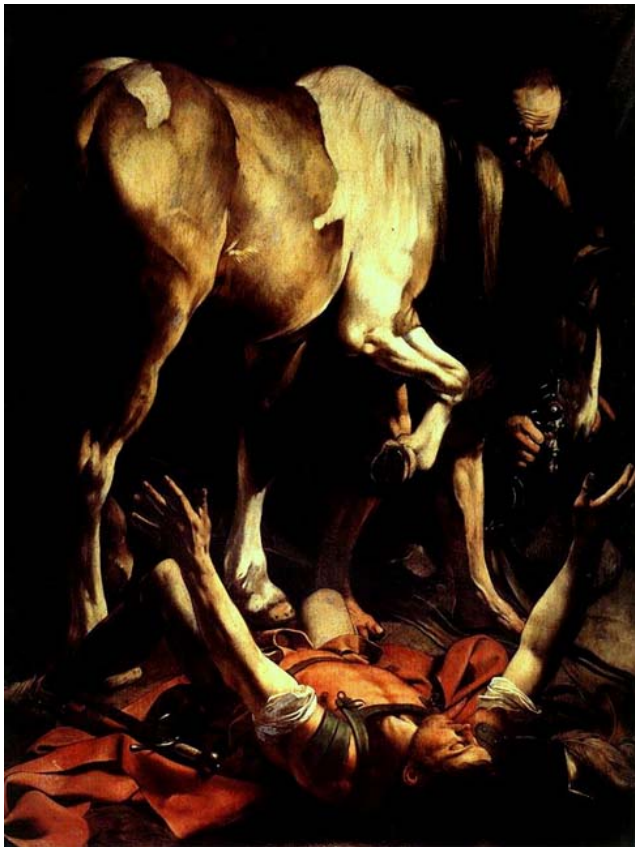
その〔イエスの〕証しを受け入れる者は、神が真実であることを確認したことになる。

(33)

御子^{みこ}を信じる人は永遠の命を得ている。(36)

その男〔パウロ〕こそ私〔イエス〕が選んだ者なのだ。異国の民に、諸国の王に、そしてイスラエルの子らに私の名を伝えるために選んだ器なのだ。私の名を伝えるためにどれほどの苦難を負わなくてはならないか、私が彼に示そう。

— 阿刀田 高 『新約聖書を知っていますか』より



カラヴァッジオ「聖パウロの回心」

— それだけじゃないな —

とも思った。

パウロが宣教に費やした^{ぼうだい}膨大なエネルギーと執念を思えば、その出発点において、イエスの声を実際に聞き、イエスを実際に見なかったならば、

— あそこまではやれない —

と、そんな判断も生まれてくる。

他人を^{だま}騙すことはできても、自分を騙すことはできない。少なくとも主観的には、パウロは絶対にイエスを「見た」のだろう。だからこそ、それを原点として彼の神学が確立できたのだろう。

(同上)

阿刀田 高

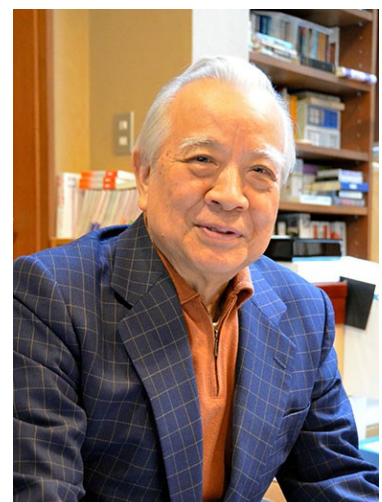
あとうだ・たかし

1935年～

作家。

短編小説の名手として知られる。

元・日本ペンクラブ会長、元・直木賞選考委員。



「我々の父はアブラハムだ」などと思ってもみるな。言うておくが、神はこんな石からでも、アブラハムの子たちを造り出すことがおできになる。

(マタイ 3:9)

肉にも頼ろうと思えば、わたし〔パウロ〕は頼れなくはない。・・・わたしは生まれて八日目に割礼を受け、イスラエルの民に属し、ベニヤミン族の出身で、ヘブライ人の中のヘブライ人です。律法に関してはファリサイ派の一員、熱心さの点では教会の迫害者、律法の義については非のうちどころのない者でした。しかし、わたしにとって有利であったこれらのことを、キリストのゆえに損失と見なすようになったのです。そればかりか、わたしの主イエス・キリストを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくたと見なしています。

(フィリピ 3:4~9)

人は律法の実行ではなく、ただイエス・キリストへの信仰によって義とされる。

(ガラテヤ 2:16)

あなたは命を選び・・・あなたの神、主を愛し、御声を聞き、主につき従いなさい。

(申命記 30:19~20)